



三木市国際交流協会「第5回出前講座」!

12月20日、三木市国際交流協会「出前講座」が行われました。今回は、プービエン・ブンナリーさん（ラオス出身）、ワード・アルハサンさん（シリア）、周珍如さん（中国）、カン・ジャハン・ゼブさん（パキスタン）がお越しくださいました。以下、生徒の感想より。

@@@ @@@ @@@ @@@ @@@ @@@

「シリアについて調べたとき、内戦の記事が多くあまりいいイメージを持たなかったけど、今回話を聞いてとてもいい国だなと思いました。」「シリアの伝統料理は神戸などにもあるそうなので、だんだんシリアの料理が日本中に広まって、本当は楽しくて明るい国だということが伝わればいいなと思います。」

「中国では放課後みんな塾に行ったり、習い事に行かないといけないということに驚きました。18歳で日本に来られ、若い年齢で大きな決断ができるということがすごいと思いました。」「経済格差やクリスマスに食べるもの、割り勘のことなどなど、たくさんお話が聞けてとても良い機会になりました。私は今年中国語の授業を受けていて、授業で新しい単語を習ったりするうちに中国のことについてもっと詳しく知りたいと思っていました。」

「印象的だったのはラオスでは高校生はみんなバイクで通学しているということで、僕たちは自転車なのでとても驚きました。」「ラオスでは、未成年者でもお酒を飲んでも良いこと（飲んでもいい習慣）や、女性は巻きスカートを履いていないと学校や市役所などに入れなかったことなど、日本とは全く違う風習があって驚き、とても興味深かったです。」



「パキスタンの学校では、生徒が掃除をしないということにびっくりしました。」「パキスタンにはウルドゥー語を含め、77もの言語があるということに驚きました。」「パキスタンの家ではゲストルームがあるのが通常だってことを知って驚きました。多いところでは4つあると聞いたので、泊まってみたいなと思いました。」

@@@ @@@ @@@ @@@ @@@ @@@

上記以外に、例えばこのような感想もありました。曰く、「いくら日本語を学んでいるといっても、お店などで関西弁しかも早口で喋られてしまうとどうしても聞き取れないということ。『やさしい日本語』を意識して話したいなと思いました。」。また、「気づいたことがあって、それは全員では無いと思うけれど、多くの日本人はシャイだということです。まず、今回初めにカンさんにコミュニケーションとったのはパトリックで、質問はありますか、と聞かれたとき、真っ先に発言しようとしたのが克海（セドリック）くんでした。私は、すごく積極的だな、凄いな、かっこいいなと思いました。いつも思うだけで終わってしまうので、今回気づいたことを活かして次の機会にもっと積極的な自分でありたいです。」と。それぞれに学びの多い時間だったようです。



3学期は、料理を通じた国際交流を計画しています。普通科の皆さんも、遠慮なく参加してくださいね。

*** **

あけましておめでとうございます。Happy new year! Bonne année! 新年好!

さて、今年(2023年・令和5年)を「干支」であらわすと? 「え〜と(シャレ)、『卯年』^{うさぎ}」は半分正解、完解は「癸卯」^{みづのと}です。

「干支」は、「十干」^{じつかん}(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と「十二支」^{じふにし}(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)を組み合わせた、古代中国(殷代)にはじまる60を周期とする暦(紀年)、時間、方位などの表記です。日本史の「『壬申』の乱」や「『戊辰』戦争」、中国史の「『辛亥』革命」などに見られますね。

「十干」に「十二支」を順番に組み合わせて、「甲子・乙丑・丙寅…」で始まり「…辛酉・壬戌・癸亥」で終わる60の組み合わせができます。ここから、60歳を「還暦」^{かんれき}(暦一^{こよみ}回り)と呼びます。また、「『甲子』園球場」の名も、竣工した1924(大正13)年が暦の初めの縁起の良い「甲子」の年にあたることに由来します。

近代(日本では明治〜)以降、欧米文明がグローバルスタンダードになると、キリスト教を背景とする西暦が世界に普及しましたが、ほんの150年ほど前までの長い期間は、東アジアでは1000年以上にわたり中国の文化・文明がスタンダードでした。「Be Global!」を意識する時、そのような時間軸から世界をとらえる姿勢も大切にしてほしいと思います。

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕

tagebuch im ausland studieren

『独日 留学日乗』

ドイツからの留学生・小林克海セドリックさんにとっては、毎日が目新しいことだらけの様子。毎日英語の「日誌」を提出してくれているのですが、その中からトピックスを紹介します。

ドイツでは花火で年越しを祝うのに対し、日本のお正月がとても静かなのに驚いたのだとか。また、年末には年越しそばを食べ、お正月はお節料理もいただき、お年玉ももらい、日本のお正月を満喫した様子です。

イラストは、クラスメイトのA・Mさんです。



国際総合科の石垣島研修旅行の報告は、次号で詳しくさせていただきます♪